

令和3年度東三河自然再生推進業務概要（東三河総局委託事業）

1. 事業の目的と概要

特色ある多様性に富んだ東三河地域の自然環境を保全し、次世代に残すことが目的。平成27年度から始まった本事業は、平成29年度までの3年間で地域の環境保全を託せるリーダーを養成、平成30年度から「地域環境リーダー」として活動を展開している。

今年度（令和3年度）も「地域環境リーダー」を任命して「①東三河ジオサイト啓発事業」と「②地域環境リーダー拠点活動推進事業」の2事業を実施した。

①東三河ジオサイト啓発事業は、中央構造線がつくる谷と川によって奥三河山間部と三河湾が結ばれ、学術的に貴重な地形・地質が形成され、希少な動植物が生息する豊かな自然環境を地形・地質の視点から見直し、広く啓発することを目指した。

②地域環境リーダー拠点活動推進事業では、昨年度から続く東三河ふるさと公園の三河山野草園での里山の再現活動を継続した。また、伊良湖古山を新たな活動拠点として選び、サケバヒヨドリの保全活動を展開することで渡りの蝶・アサギマダラの保全を図り、地域の豊かな自然の維持に努めた。

2. 実施結果

(1) 東三河ジオサイト啓発事業

紹介するジオサイトのエリアを渥美半島とし、2名の地域環境リーダーが2名のアドバイザーの指導でジオガイド内容を作成、バスツアーによる2回の日帰りジオツアーを実施した。

ジオサイトは「笠山（蛇紋岩・カンラン岩地形と特有の植生）」「いらごさららパーク（砂丘と淡水レンズ・海浜植生）」「伊良湖古山と恋路ヶ浜（チャート・漂着軽石と海浜植生・渡りの蝶と鳥）」の3か所だった。

ジオツアー実施は、1回目が11月23日、2回目が11月28日だった。参加者は1回目が一般20名と地域環境リーダー拠点活動推進事業の地域環境リーダー3名の計23名だった。2回目は、一般20名と地域環境リーダー拠点活動推進事業の地域環境リーダー3名の計22名だった。2回のジオツアーの一般参加者の合計は、42名だった。アンケート結果では、おおむね好評だったが、日出の石門や初立池の露頭の見学もしたかったと要望もあり、今後の課題となった。



姫島沖を通る中央構造線について説明



伊良湖灯台わきのある津波石の説明



恋路ヶ浜で海浜植物を観察



流れ着いた軽石を発見

(2) 地域環境リーダー拠点活動推進事業の実施結果

1. 東三河ふるさと公園における里山の再現活動

昨年度に続き参加の地域環境リーダー6名とアドバイザー2名が活動した。テーマは、「茅場再現実践『カヤネズミが棲む里山の再現活動』」で7月に草刈実施、夏休み中の8月7日に自然環境保全イベント「夏休み！遊んで学ぼう！里山づくり体験 in ふるさと公園」を開催した。参加者は、小学生4名を含む親子と大学生等15名だった。

植生調査体験、虫追いと昆虫採取や「裸地形成」体験をしてもらった。裸地形成は、表土をはぎ取って土中に残る地域の埋土種子の発芽を促し、旧来の植生を探る実験の性格を持つ。イベント参加の学生は、12月4日の植生調査に参加し、裸地の植生を観察した。

2. 東三河地域内における新たな拠点の整備

伊良湖古山を新たな活動拠点として選んだ。地域環境リーダーは、伊良湖古山も活動エリアにしている「たはら里山の会」のメンバー12名と東三河ふるさと公園での里山の再現活動にも参加している2名でアドバイザー1名を加えた計16名が参加した。

伊良湖古山遊歩道は、毎年9月に開催される「伊良湖トライアスロン大会」のコースになっており、8月に草刈りが行われてきた。このためアサギマダラの吸蜜草・サケバヒヨドリの生育が阻害され、10月のアサギマダラ飛来に影響があった。

少しでもアサギマダラの飛来を助け、地域の生態系を保全しようと取り組んだもので、古山のサケバヒヨドリから採取した種子と茎から育成したな苗約100本を8月後半に植栽した。10月には、飛来したアサギマダラのマーキング調査も実施した。また、海浜植生の観察や漂着ごみの調査も実施した。



里山再現目指して草刈り実施



虫追いを楽しんだ子供たち



表土をはぎ取り裸地形成に取り組む



裸地の発芽を確認する植生調査



育成したサケバヒヨドリの苗



アサギマダラのマーキング実践



恋路ヶ浜で海浜植物の観察



拾った漂着ごみを集めて分類する